

第14回 復興計画推進会議のまとめ

1. 発表

南三陸町で働く人を増やすための提案

◆背景

復興計画推進会議では、人口減少・流出が町の復興に大きな課題となるという認識から、その対策として、三つのテーマを選び検討し、平成25年度は「魅力的な町になる」、平成26年度の前半には「住環境の向上」を町に提案しました。

今回は、三つ目のテーマとして「働く人を増やす」対策を提案します。そのためには、町民と行政が一丸となり、町内在住者に限らず、Uターン・Iターンする人を増やしていくことや町民発の小さな仕事を増やすこと、求職と求人のミスマッチを解消することが目標となると考え、提案書にまとめました。

◆提案内容

<Uターン・Iターンする人を増やすために町ぐるみで取り組む>

東日本大震災後、住まいだけでなく雇用の場も限られることから町外に出られた方がいます。その方たちが改めて故郷「南三陸」の魅力に気づき、Uターンしやすくなる取り組みを提案します。

また、復興を応援していただいている方をはじめ、多くの町外に住まわれている方が南三陸町のことを気にかけてくれています。その方たちが南三陸町を気に入っていただき、町内で働き、定住していただけるような、「心地よい町」を目指す取り組みを提案します。

<提案1>南三陸町での当たり前を育み、町の良さを町内外に紹介する。

南三陸町では当たり前のことが、他から見れば素晴らしいこと（例えば、お茶っこのみやお裾分けの文化、海里山が身近にある自然、旬の海の幸・山の幸など）を見直して、町の良さを育み、町内外に紹介する。（行政の広報や町民の口コミで実施）

<提案2>震災で培った恩返しの精神とおもてなしの心を磨き、働きたい町にする。

町民の持つ「震災で培った恩返しの精神」、「もともとあった人あたりの良さとおもてなしの心」をどこの地域よりも磨き、「新たにこの町に住んでみたい、働いてみたい」と一番先に思われる環境を作る。

（町民主体で実施）



<提案3>南三陸町に興味を持っている町外の人々、若者の誘致、たとえば、協力隊...

南三陸町は延べ14万人のボランティアに復興を応援していただいております。町外の方々に支援していただける力の大きさ、大切さ、ありがたさを実感している。また、多くの町内外の個人・団体が地域づくりに活動されていることに加え、復興応援隊として活動されている方も観光振興などに活躍されている。引き続きこの応援隊などの力をお借りするとともに、総務省の「地域おこし協力隊制度」も活用して南三陸町に興味を持っている町外の人々や若者の誘致に力を入れ、その受け入れ体制づくりも進める。（行政主体で実施）

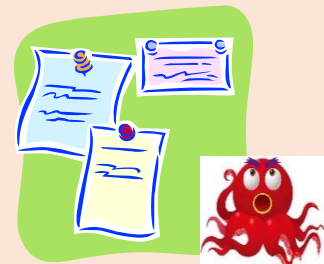
＜町民発の小さな仕事を増やす・求職と求人とのミスマッチを解消する＞

東日本大震災後3年10ヶ月が経過し、求人は増加しつつありますが、就職率は高くなっていません。この大きな理由として、希望する職種や希望する時間で働ける所が見つからないという、求職と求人とのミスマッチが存在すると思います。そのため、町民が主体となり、きめこまかに仕事の情報を交換できる場を作ることを提案します。

＜提案4＞気軽に仕事の情報交換ができる掲示板を置く。

「ちょっとした仕事になること」、「私はこの仕事ができます」などの情報交換ができるように、「タコの手センター」と名付ける掲示板を、町内の商店街やカフェの一角に置く。

※「猫の手を借りたい」気持ちを8本の手を持つ南三陸のタコに託し、「タコの手センター」にした。（町民主体で実施）



＜提案5＞町内外の人にアイデア集を活用してもらおう。

南三陸町の「起業の種」と「必要な仕事」を集めたアイデア集を、広く町内外に紹介して、起業や就業する際の参考に活用してもらおう。

（町のホームページや町民の口コミなどで実施）



＜おわりに＞

南三陸町で働く人を増やすためには、誰にでも分かるように、これらの提案をもとにした取り組みにストーリーを持たせ、内容を発信し、町民や関係者の啓発に取り組んでいくことが重要と考えます。これまで当会議で提案したことについては、当会議終了後も実現に向けて取り組んでいただき、また、当会議の委員がその後の状況（取り組み結果）がわかるように情報発信していただくようお願いします。



南三陸町で働く人を増やすためのアイデア集

◆背景

南三陸町で働く人が増えることを願い、「町の起業の種」や「町にあったら良いと思う仕事」を検討し、アイデア集としてまとめました。

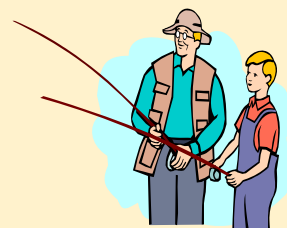
◆アイデア集

<町の起業の種>

南三陸町の山・里・海・人の魅力を起業の種として紹介します。

種1 海の恵み（海の景観、豊富な海産物、海のレジャー）

- ・ 神割崎、リアス式海岸などの景観
- ・ ワカメ、メカブ、タコ、ホタテ、ウニ、ホヤ、鮭、いくら、牡蠣、アワビ、タラ、めばる、たなごなどの海産物
- ・ 漁業体験機会、手軽にだれでもできる海釣り、海水浴 など

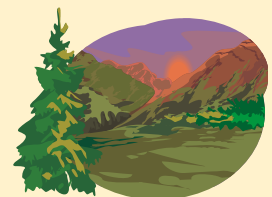


★海の恵みの活用例★

- 観光客向けに豊富な海産物を活かした旬の味を味わってもらう海のレストラン
- 日持ちするように海産物を加工・販売するみやげ店
- 漁業体験や海のレジャー・学習のガイド業や釣具・レジャー用品のレンタル店
- 釣った魚を調理する店 など

種2 山・里の恵み（山・里の景観、多様な山菜や農産物ができる環境、農業体験）

- ・ 山・里の景観
- ・ さといも、ネギ、なし、りんご、そばなどいろいろな作物を栽培できる土壌
- ・ 南三陸杉、田束山のつつじ、山菜、たけのこ など
- ・ 農業体験 など



★山・里の恵みの活用例★

- 観光客向けに山・里の恵みを活かした里のレストラン
- 農産物栽培に適した土の休耕地を借りた農業生産
- 南三陸杉を使った木工教室、南三陸杉を加工販売する店 など

種3 南三陸町でしかできない自然体験・学習・旬の食べ物

- ・コンパクトに揃っている山・里・海
- ・鮭の遡上体験をはじめとする自然の学習機会
- ・自然環境活用センター、自然の家 など
- ・キラキラ井、浜の豆など旬の食べ物



★自然の活用例★

- 山・里・海を活かした研究活動
- 町外からくる人の自然体験・学習機会・滞在先等を提供・仲介するサービス
- 自然体験と食を組み合わせた「自然体験と食べ歩きツアー」の旅行企画・運営など

種4 三陸自動車道の延伸で便利になる交通アクセス

- ・平成27年度の(仮称)志津川IC開通で仙台と直結し、所要時間が1時間40分*に短縮。(人・ものが入りやすい)
- 注*) 三陸自動車道計画を沿線自治体広報誌より整理し時間計算ソフトで算出



★三陸自動車道の活用例★

- 高速交通体系を利用した仙台・南三陸周遊ツアーの旅行企画・運営
- インター周辺を仙台の人も南三陸の人も利用できる癒しのスポット など

<あったらいいな、こんな仕事編>

こんな仕事があったらいいな、というものをご紹介します。

★思い★

- ・高齢者比率が半分になる団地もあるなど高齢化が進む一方で、移動手段が限られるので、移動を支援してくれる人が欲しいです。

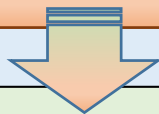
求1 高齢者のお出かけ支援

- ・高齢者のお出かけ(買い物やイベントなど)時に送迎してくれる人



★思い★

- ・高齢者だけの家庭も多いので、家事の便利屋さんが欲しいです。



求2 家事・作業代行支援

- ・片づけの時に重い家具を動かしてくれる人
- ・お使いに行ってくれる人 など



★思い★

- ・高齢化している農家や漁家では何でも手伝ってくれる人が欲しいです。(初心者もベテランのノウハウを習得可能です。)



求3 農林漁業のサポーター

- ・農家などの仕事を何でも手伝ってもらえるサポーター など



★思い★

- ・町にはたくさんの住宅需要がある一方、大工など職人の見習いや後継者が少なくなっているため、職人の技を継承してほしいです。



求4 大工等の職人さんの後継者

- ・大工さんなど職人さんの見習い・後継者



★思い★

- ・町に家族や高齢者、若者など多世代が憩える場がほしいです。



求5 家族の憩いの場

- ・温浴施設、娯楽施設 など
- ・商店街などの碁会所・将棋会館・卓球所 など



3. 提案書・アイデア集の提出と副町長のコメント

◆提案書・アイデア集の提出

- ・住民委員から提案書・アイデア集を副町長に手渡した。

◆副町長からのコメント

- ・提案は、いずれも南三陸町にとって重要な課題であり、住民の視点で真摯に協議されたことがわかる。
- ・全国的に、若者流出、働き手不足、高齢化などにより人口減少の問題が深刻化している。南三陸町も同様の問題を抱えているが、震災からの復興を契機として、魅力あるまちづくりを行い、多くの人々が住みたい、働きたいと思える町になるよう努力する。
- ・会議終了後も提案の実現に向けて取り組み、総合計画の参考にさせていただき、その結果を情報発信していく。



4. 復興計画推進会議の感想と今後のまちづくりに向けて

復興計画推進会議を終了するにあたり、会議の感想と今後のまちづくりについて、住民委員が自由に意見交換をし、学識者・有識者の方に助言をいただきました。

<住民委員の皆さん>

- ・南三陸町のまちの魅力を改めて実感した。内外に向けての情報発信が大切と思う。
- ・行政と住民が同じ目線で話し合いができ、いろいろな立場や角度から議論ができてよかった。
- ・推進会議での提案が実現できて意識が変わり、住民と行政による協働のまちづくりを実感できた。
- ・推進会議の検討を通して、まちづくりに対して積極的になれた。
- ・まちを誇りに持ち、まちの将来をよく考えている皆さんと出会えて良かった。
- ・推進会議が終わった後も、いろいろな人が集まれる場があるとよい。

<学識者・有識者委員の皆さん>

- ・やれないことは無理にやらずに、町の資源を使ってできることをやるという姿勢が大切。
(平野副委員長)
- ・今後も交流機会を増やし、交流をしていくことがまちの活性化に重要。(三浦委員)
- ・待つばかりでなく行動すること、あった方が良いものについてはまずやってみることが大切。
(稲葉委員)
- ・町民自身でまちづくりに取り組む姿勢が大事。町と大学の連携協定を活かしこれからも町を応援する。(宮原委員長)